

平成 29 年度サービス第三者評価（公益社団法人全国有料老人ホーム協会）

法人名	株式会社アライブメディケア		ホーム名	アライブ浜田山		ID	2903	
	評価機関	株式会社 ケアシステムズ				評価日	2018. 1. 17	
スケルNo.	自己評価	機関評価	スケルNo.	自己評価	機関評価	スケルNo.	自己評価	機関評価
1. 1. 1	B	B	2. 3. 3	A	A	6. 1. 2	A	A
1. 1. 2	A	A	2. 3. 4	A	A	6. 1. 3	A	A
1. 1. 3	A	A	2. 3. 5	A	A	6. 2. 1	A	A
1. 1. 4	A	A	2. 3. 6	A	A	6. 2. 2	A	A
1. 2. 1	B	A	2. 3. 7	B	B	6. 2. 3	A	A
1. 2. 2	A	A	2. 3. 8	非該当	非該当	6. 2. 4	A	A
1. 2. 3	B	A	2. 3. 9	A	A	6. 2. 5	A	A
1. 3. 1	A	A	2. 3. 10	A	A	6. 2. 6	A	A
1. 3. 2	A	A	2. 3. 11	A	A	6. 2. 7	A	A
1. 3. 3	A	A	2. 4. 1	A	A	6. 2. 8	A	A
1. 4. 1	A	A	2. 4. 2	A	A	6. 2. 9	A	A
1. 4. 2	A	A	2. 4. 3	A	A	6. 3. 1	A	A
1. 4. 3	A	A	2. 4. 4	A	A	6. 3. 2	A	A
1. 4. 4	A	A	2. 4. 5	A	A	6. 3. 3	A	A
1. 4. 5	A	A	2. 4. 6	A	A	7. 1. 1	A	A
1. 4. 6	A	A	3. 1. 1	A	A	7. 1. 2	A	A
1. 4. 7	A	A	3. 1. 2	A	A	7. 2. 1	A	A
1. 4. 8	A	A	3. 1. 3	B	B	7. 3. 1	B	B
1. 5. 1	A	A	3. 1. 4	A	A	7. 3. 2	A	A
1. 5. 2	A	A	3. 1. 5	非該当	非該当	7. 3. 3	A	A
1. 5. 3	A	A	3. 1. 6	A	A	7. 3. 4	A	A
2. 1. 1	A	A	3. 1. 7	A	A	7. 4. 1	A	A
2. 1. 2	A	A	4. 1. 1	A	A	7. 4. 2	A	A
2. 2. 1	A	A	4. 1. 2	A	A	7. 4. 3	A	A
2. 2. 2	A	A	4. 1. 3	A	A	7. 4. 4	B	A
2. 2. 3	A	A	4. 1. 4	A	A	7. 4. 5	A	A
2. 2. 4	A	A	4. 2. 1	A	A	7. 5. 1	A	A
2. 2. 5	B	B	4. 2. 2	A	A	7. 5. 2	A	A
2. 2. 6	A	A	5. 1. 1	B	A	7. 5. 3	A	A
2. 2. 7	A	A	5. 1. 2	A	A	7. 5. 4	A	A
2. 2. 8	A	A	5. 2. 1	A	A	7. 5. 5	A	A
2. 2. 9	B	B	5. 2. 2	A	A	7. 5. 6	A	A
2. 2. 10	A	A	5. 2. 3	B	B	7. 5. 7	A	A
2. 2. 11	A	A	5. 2. 4	A	A	7. 6. 1	A	A
2. 3. 1	A	A	5. 2. 5	A	A	7. 6. 2	A	A
2. 3. 2	B	B	6. 1. 1	A	A	7. 6. 3	A	A

## 評価機関所見

◆優れた取り組みと思われる点	
スケールNo.	所 見
1-2-2	法令遵守に関する職員研修に関して力を入れている。特に高齢者の虐待防止に対する法人の姿勢、カリキュラムに関しては素晴らしいものがあることが確認できる。施設長自らが積極的に外部の研修に参加し、研修で得た知識を現場職員にフィードバックしており、職員の意識向上、技能向上が進められている。
2-4-6	災害時のマニュアルを定め、備蓄を整え、さらに防災訓練を定期的に行っている。災害伝言ダイヤルを毎月、テスト利用し、万が一の時に入居者の生命、職員の生命を守るための意識の醸成と、取り組みを常日頃から行っている。
5-1-1	評価基準では「毎日、朝・昼・夕食のうちいずれかで選択メニューを実施している。」とある。選択メニューとして定期的に企画しているが「毎日」では、ないためにBと自己評価としている。ヒヤリングから個別支援として、残食チェックや嗜好調査を優先に五感を意識した毎日の献立には、バリエーション豊かな献立に工夫が見られることからBをAに変更した。
6-1-1	自立支援推進委員会によるリハビリ会議が定期的実施され、生活リハビリ・機能リハビリにおいても要介護にならないようプランに生かされ各職種にも連携がしっかりと取れて実施されていることがうかがえた。

◆さらに取り組むことで、より質の向上が可能と考えられる点	
スケールNo.	所 見
3-3-3	入居者の安否確認では、目視や徘徊センサー設置などの対応や夜間においても3時間ごとの巡視が施行されている。居室内の安否確認においては、全室個室であり居室の様子に至ってはプライバシーへの考慮から安否確認が分かりにくい状況にある。居室内での転倒事故や急変時の対応策として評価のポイントにも挙げられているリズムセンサーなどの導入が望まれる。
6-3-2	現状の入居者の状態から評価結果はAと評価されているが、今後は入居者の高齢化や重度化、それに伴い介護技術及び認知症の専門的な知識と理解が必要になることが予測される。入居者の安心、安全の確保と穏やかな生活にむけて、外部の専門的な研修への参加や認知症専門医による研修などを実施し職員の知識と技術の向上に取り組むことが望まれる。